

Trias 企業メモ 2009-08-28

**Lasertec** (6920 JASDAQ) レーザーテック株式会社  
2009年6月期 決算説明会・フォローアップ取材メモ

2009年8月19日、レーザーテック株式会社(以下、レーザーテック)の2009年6月期 決算説明会が開催されました。説明会参加後、本年7月より代表取締役社長に就任した岡林理氏を取材させていただきましたので、決算説明会の概要ともども、ご報告いたします。

なお、決算説明会出席者は、代表取締役社長 岡林理氏、取締役 内山秀氏、財務経理部長 塚崎健明氏、企画 IR 室長 今井哲也氏です。

**【2009年6月期 連結決算概要】** (連結業績サマリについては、P4の「業績の推移」をご参照ください。)

【表1】にある通り、2009年6月期は、半導体関連売上が大きく落ち込む一方、期初の受注残も手強い、FPD関連の売上は好調だった。受注高・受注残高については、顧客メーカーによる設備投資延期の影響などで、液晶大型マスク用検査装置やCF(カラーフィルター)修正装置等のFPD関連が大幅に減少した。

【表1】製品別 売上高・受注動向

連結 (百万円)	2008年6月期			2009年6月期					
	受注高	売上高	受注残高	受注高	対前年比	売上高	対前年比	受注残高	対前年比
半導体関連装置	2,911	7,882	1,715	2,638	-9.4%	2,839	-64.0%	1,514	-11.7%
FPD関連装置	7,170	4,399	7,193	1,292	-82.0%	4,919	11.8%	3,567	-50.4%
レーザー顕微鏡	923	804	177	467	-49.4%	599	-25.6%	46	-74.0%
サービス	1,048	1,049	85	935	-10.8%	908	-13.4%	113	31.7%
合計	12,054	14,136	9,172	5,334	-55.7%	9,266	-34.4%	5,240	-42.9%

営業利益は、販管費圧縮効果が6億円あったものの、販売減に伴う粗利の減少 △24.7億円、粗利の低いCF修正装置が増加する一方、利益率の高い大型マスク検査装置の売上が減少する等、売上構成悪化による影響が△14.3億円、製品評価損等の計上が△4.6億円あり、前年同期比 37.6億円減の△6.6億円となった。

なお、当期の主な新製品は以下の通り:

- 半導体関連 「WASAVI」シリーズ MR300: ウェハ全面のムラ/CDエラー高解像度可視化装置。微小領域のエラーを可視化するためのアルゴリズムを開発。デジカメ等に用いられる撮像素子向けウェハの塗布工程の膜厚のムラや微小な線幅エラーを検出する。
- FPD 関連 71PA/71PP: 液晶の第10世代向け大型マスク検査装置の周辺装置の一つで、ペリクル(フォトマスクに貼り付ける防塵用の保護膜)の異物検査からペリクル貼付を自動処理するための装置。第8世代から第10世代への移行に際し、塵埃の原因となる人が介在しなくてもすむように、完全自動化した。
- クリーンエネルギー関連 MP50: 変換効率に直結する電流密度を高速で測定できる太陽電池変換

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

効率分布測定機で、変換効率を直接測定できる初のシステム。今回、従来の故障解析法(OBIC: Optical Beam Induced Current)に加え、コンピュータ断層撮影(CT: Computed Tomography)技術等によるオンリーワンのアプローチを用いた。現在、卓上型等、シリーズの開発を行っている。

**【2010年6月期業績予想】** (連結業績予想サマリについては、P4の「業績の推移」をご参照ください。)

2010年6月期については、中国や日本における景気刺激策の効果を織り込み、半導体・液晶とも、市況の回復を見込んでいる。半導体については、設備稼働率が2009年1-3月期に底打ちし、回復局面に入ったとの前提だが、設備投資に関しては、増産投資は期待できず、勝ち組メーカーによる次世代技術開発や次世代ラインのための案件に限られると予想している。液晶に関しては、液晶テレビの活況で、韓国・台湾・日本のパネルメーカーが恩恵を受けると想定している。設備投資については、韓国勢による第8.5世代ラインの拡張が予想されるが、次世代(第10世代以降)については、先送りになっている模様だ。一方、中国のパネルメーカーによる新規投資は期待できる。

製品別動向では、半導体関連で、マスク検査の次世代機種、ブランクス検査用 EUVL(Extreme UltraViolet Lithography: 極端紫外光リソグラフィ) 対応の先端装置や、ブランクスメーカー向けの欠陥検査装置 MAGICS の売上を見込む。液晶関連では、CF 検査・修正装置を中心とした売上を見込む。なお、CF 修正装置については、価格競争も厳しく、ビジネスモデルの見直しを迫られている。上期を目処に、新設計、あるいはオプション機能の販売など、差別化戦略の方向性を明確にし、収益性の改善を早急に図る。

新製品のリリースについては、9月中旬:半導体マスク検査装置、10月:太陽電池変換効率検査装置の卓上型、11月:半導体マスク関連の周辺装置が予定されている。【表2】にある通り、半導体関連売上が特に下期、大幅に回復する予想だが、前期リリースの新製品を含め、新たなラインアップに対する期待をある程度織り込んでいる。なお、太陽電池関連は、今回の卓上型を手始めに、今後シリーズ化による展開を予定しているが、本格立ち上がり期待できるのは2011年6月期以降。太陽電池関連市場では既に価格競争が始まっており、レーザーテックではこの競争に巻き込まれないよう、世界初・オンリーワンの考え方を崩さない方針だ。また、事業拡大時に収益性が崩れないよう、収益モデルの見直しも行っている。

**【表2】製品別売上高予想**

連結 (百万円)	2009年6月期 (実績)		2010年6月期 (予想)				
	実績	構成比	上期	下期	通期	構成比	対前年比
半導体関連装置	2,839	30.6%	1,180	3,690	4,870	50.2%	71.5%
FPD関連装置	4,919	53.1%	970	2,110	3,080	31.8%	-37.4%
レーザー顕微鏡	599	6.5%	n.a.	n.a.	800	8.2%	33.6%
サービス	908	9.8%	n.a.	n.a.	950	9.8%	4.6%
合計	9,266	100.0%	3,050	6,650	9,700	100.0%	4.7%

営業利益については、売上構成の改善、原価低減効果、半導体関連を中心とした売上増に伴う粗利の改善に、販管費削減が加わり前年同期比 10.9 億円増の 4.3 億円を見込む。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

## 【中期経営方針】

岡林新社長指揮のもと、大幅に若返った新経営体制が7月1日より始動した。「100年に一度の大不況で世界は変わった。レーザーテックも生まれ変わらなければならない！」との基本認識のもと、抜本的な経営革新が始まっている。前提となる市況見通しとして、製造装置市場にこれまでのようなペースでの量の拡大は望めないとの見方に立ち、「技術進化に対応するための性能を持つ装置」、「プロセス上の問題解決につながる装置」等、成長の源泉を市場ニーズに沿ったソリューション開発に置くとの考え方を明確化した。また、これら開発を推進する上で、レーザーテックが長年に亘り培ってきた光学系技術(短波長を扱う技術や、焦点面以外の光を除去し、ぼけのない画像取得を可能とする共焦点技術等)に、エレクトロニクス(高密度デジタル回路技術等)、精密機構(高精度高速ステージ技術等)、ソフトウェア(画像処理技術等)といった周辺技術を組み合わせ、最高のソリューションをタイムリーに開発するため、同社の従来の強みである「開発のアイディア力」を更に強化する。

顧客ニーズに基づく開発には、目下、以下のような案件がある：

### ● 半導体関連

- ◇ 露光技術の進化により(※1)、露光波長が短波長化・高エネルギー化していく中、露光を重ねるに従いフォトマスクの表面に発生する成長性異物のような新たな問題、そして回路パターンの微細化・複雑化に対応する装置；
- ◇ 先端技術開発領域の EUVL において、小さな欠陥を検出する等の装置。現在、米国セマテック (SEMATECH: 1987年に発足した、米国が官民共同で行っている半導体製造技術研究組合。次世代半導体、特に超 LSI の開発・製造技術の確立を目指す。) と共同で、次世代の微細環境用マスクブランクス検査装置を開発している。
- ◇ ウェハ製造工程の進化に伴う検査(反り、深さ計測など)のための装置。例えば、更なる高密度・高速動作を目指し、従来の横方向の集積度アップから、縦方向に回路を集積する三次元積層デバイスが実用化を迎えているが、積層デバイスを上下に接続する貫通電極エッチングの深さの高精度な検査ができる装置。

※1 現在は、193nm の ArF エキシマレーザーが中心。次世代として、157nm の F2 レーザー、13-14nm の EUVL がある。

### ● 液晶関連

- ◇ 大型マスクのより複雑・微細なパターンの欠陥検査装置。
- ◇ 液晶パネルの歩留り向上のための検査装置。

### ● クリーンエネルギー関連

- ◇ 太陽電池変換効率向上・高信頼性確保のための検査装置。
- ◇ パワーデバイスのための検査装置。

レーザーテックは、2010年、創業50周年を迎える。この間、「世の中にないものを作る。世の中のためになるものをつくる。」という考え方のもと、コア技術を活用した製品化のスピードを強みとしてきた。前述の、「開発のアイディア力」である。100年に一度と言われる大きな環境変化のもと、その強みを一層強化し、事業成長に活かすため、現在、抜本的な組織改変が行われている。

開発面では、リードタイム短縮のため、半導体・液晶・顕微鏡と、製品別に分かれていた組織を一体化した。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

これにより、人的資源を横断的に活用できるようになった。加えて、製造部門を技術本部に組み入れた。今後、開発そのもの、ならびに開発品の移管（※2）におけるプロセスの見直し、プロセスのマニュアル化、情報伝達の精度向上等への取組みを行い、プロトタイプ開発期間の短縮を目指す。その上で、業務の見える化を行い、属人的になっていたプロセスや情報の共有化を推進していく。また、従来バラツキのあった開発の進捗管理や生産性管理も強化する。

※2 ファブレス・ファブライต์モデルのため、2号機以降の生産は協力会社に任せることになるが、その際の技術移管プロセス。

マーケティングの観点からは、新製品比率の向上を図る。そのためにも、顕在化した顧客ニーズのみならず、潜在ニーズへの取組みを強化する。また、従来培ってきた技術プラットフォームを産業用途等、他業種にも展開するため、9月より新たなマーケティングツールによるPR活動を強化する。従来の半導体・液晶といった事業ドメイン以外を目指すため、より広範な連携や協業に挑戦しなければならない。

このような経営革新を通じ、今期予想 4.43%の連結営業利益率を、2012年6月期 20%に押し上げる。この間、同社の収益モメンタムは、半導体や液晶のサイクル的影響よりも、現在進行中の「開発のアイディア力」強化による新製品比率の向上等の内部成長力に、より大きく影響されるものと予想する。

（以上、決算説明会・フォローアップ取材メモ）

## 【ご参考】

### (6920) レーザーテック株式会社

#### 連結主要指標と業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2009.6月	11,785,800
うち自己株式数(株)	2009.6月	522,727
時価総額(百万円)	2009.8.28	10,489
一株当純資産(円)	2009.6月	1,175.7
ROE(%)	2009.6月	-5.2
ROA(%)	2009.6月	-3.1
PER(倍)	2010.6月予	50.1
PCFR(倍)	2009.6月	-58.3
PBR(倍)	2009.6月	0.8
株価(円)	2009.8.28	890

連結主要データ		
総資産(百万円)	2009.6月	19,867
自己資本(百万円)	2009.6月	11,922
有利子負債(百万円)	2009.6月	6,100
自己資本比率(%)	2009.6月	60.0
有利子負債比率(%)	2009.6月	51.2
フリーキャッシュフロー(百万円)	2009.6月	-1,726

注：ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均

ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均

PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)

有利子負債比率=有利子負債÷自己資本

フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF

連結(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	純利益	一株益(円)	一株配(円)
2006年6月期	12,033	2,963	3,060	1,884	162.3	40.00
2007年6月期	15,874	3,895	3,895	2,375	203.8	60.00
2008年6月期	14,136	3,100	3,156	1,888	165.2	50.00
2009年6月期	9,266	-657	-659	-651	-57.82	15.00
予2010年6月期中間期	3,050	-780	-800	-510	-45.28	-
予2010年6月期	9,700	430	370	200	17.75	15.00

注 2010年6月期予想は、2009年8月10日発表の会社予想

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。